

共生社会ホストタウン追加登録団体の活動計画（2020年3月6日）

自治体名 (所在都道府県名)	相手国	活動計画
三芳町 (埼玉県)	マレーシア (アーチェリー、バドミントン、水泳、陸上)	<p><b>【パラリンピアン等との交流】</b></p> <p>・マレーシアの4競技の事前合宿、交流会、小中学校での講演や給食を通じた交流等を実施し、障害への理解を促進する。さらに、小学生から高齢者まで幅広く参加した地元の車いすバスケ選手による講演・体験会等のパラリンピアンとの交流を進めており、来年度以降も交流を継続していく。</p> <p><b>【ユニバーサルデザインの街づくり】</b></p> <p>・小学校5校のトイレを車いす利用者等対応した「みんなのトイレ」に改修する等、計画的に学校のトイレの改修を進めている。また、観光拠点でもある農業センターや総合体育館の等の公共施設のバリアフリー化を進めている。さらに、マレーシアパラ選手による名所観光を通じ、当事者目線の意見を頂き、バリアフリー化を進める。</p> <p><b>【心のバリアフリー】</b></p> <p>・2019年11月に開催された福祉まつりにおいてポッチャの体験ブースを設置。今後も障害者スポーツ体験会を開催し障害の有無に関わらず交流を推進する。また、手話言語条例を制定するとともに、簡単な手話から始めることで敷居を低くした手話体験講座を継続的に開催している。さらに、あいさぽーター研修を継続的に行っており、累計1,348人の参加があった。</p>
柏市 (千葉県)	英国 (車いすテニス)	<p><b>【パラリンピアン等との交流】</b></p> <p>・2019年8月、車いすテニス英国代表の事前合宿を受け入れ、子供たちとの交流等を行った。2020年8月にも再び事前合宿を受け入れ、公開練習や交流会を行うとともに、大会期間中は試合会場やパブリックビューイング等により選手の応援を行う予定である。</p> <p><b>【ユニバーサルデザインの街づくり】</b></p> <p>・市内学校施設のバリアフリー整備（エレベータ設置等）を段階的に進めている。また、柏の葉キャンパス駅及び柏たなか駅周辺において、歩道の段差解消・幅員確保、電線の地中化、点字ブロックの設置等を行っている。</p> <p><b>【心のバリアフリー】</b></p> <p>・市民向けの障害者スポーツイベントをはじめとした障害理解推進事業を継続的に実施している。また、ヘルプマーク・ヘルプカードのポスター配布、駅等での活用や、市役所窓口における聴覚障害者のコミュニケーション支援のためのパネル型磁気ループ等の設置を行っている。</p>
練馬区 (東京都)	エクアドル (陸上等)	<p><b>【パラリンピアン等との交流】</b></p> <p>・エクアドルのパラ陸上選手等の事前合宿を受入れ、練習見学会等の区民との交流を行う。また、区のマラソン大会におけるパラアスリートのトークショーや東京大会の100日前イベントにおけるパラスポーツ体験、夏休み親子パラリンピック競技体験会等を行っており、今後もこれらを継続的に行うことを通じて障害者スポーツの普及と共生社会を推進する。</p> <p><b>【ユニバーサルデザインの街づくり】</b></p> <p>・2020年4月に車いすテニスに適応した庭球場を新設予定。また、練馬駅へのホームドア設置等の鉄道駅のバリアフリー化を促進しており、区内全駅で最低1つのバリアフリールートが整備されている。さらに、店舗、診療所、銭湯等のバリアフリー化への助成をこれまで150件以上実施、今後も継続していく。</p> <p><b>【心のバリアフリー】</b></p> <p>・2017年度から誰でも楽しめる「Nerimaユニバーサルコンサート」を開催し、コミュニケーション支援や難聴者用イヤホン、手話通訳等による会場案内、点字版のプログラム等のサポートを実施している。また、「練馬区発 100万人のハンドスタンプアートプロジェクト」として、病気や障害のある子供たち等のハンドスタンプ（手形）を集めモザイクアートを製作し、東京大会を応援する取組を行っている。</p>
足立区 (東京都)	オランダ	<p><b>【パラリンピアン等との交流】</b></p> <p>・オランダのパラアスリートや指導者等がこれまで5回来訪し、小中・特別支援学校での交流や地域のスポーツ関係者向け講演会等を行った。また、知的及び身体障害者が参加する全国スペシャルランポリン交流大会及び区民との交流イベントを隔年で開催している。小中学校でのパラリンピアンとの交流も継続的に実施している。</p> <p><b>【ユニバーサルデザインの街づくり】</b></p> <p>・オランダのヨハン・クライフ財団が世界に広めている、子どもたちが障害の有無に関わらず積極的にスポーツを楽しむ「スペシャルクライフコート」を2020年8月に開設する。また、ユニバーサルデザインのまちづくり条例に基づくユニバーサルデザイン推進計画を2019年度改定し、区役所内各部局横断的に施策の進捗管理を行う。</p> <p><b>【心のバリアフリー】</b></p> <p>・毎年2月を障害者スポーツ月間として、8種目のパラスポーツを体験できる障害者スポーツフェスティバルやパラスポーツ大会等を継続的に開催している。2019年から年5回、地元パラアスリートやスポーツ関連施設等が参加するスポーツミーティングを区内6ブロックで開催し、障害者スポーツの普及を行っている。2020年度には、オランダの取組を参考に障害者のスポーツ相談窓口の設置を予定している。</p>

自治体名 (所在都道府県名)	相手国	活動計画
町田市 (東京都)	インドネシア (パラバドミントン)	<p><b>【パラリンピアン等との交流】</b></p> <p>・2017年以降3回にわたりインドネシアパラバドミントン選手団の合宿を受入れ、小中学校での交流会やバドミントンクリニック等の市民交流を行った。また、地元パラリンピアンが、市内42の小中学校を回り地元出身のマラソン選手の応援を受け取ったり、自らプロデュースしてパラスポーツ体験会を開催したりと市民と交流をしている。</p> <p><b>【ユニバーサルデザインの街づくり】</b></p> <p>・障害者団体や地元町内会等で構成される部会による意見交換や現地調査を行いつつ、市内10地区のバリアフリー基本構想の改定を順次進めている。また、福祉のまちづくり条例に基づき都市施設のトイレ等について誰でも使いやすい環境整備の基準を解説・図解した「整備基準等マニュアル」を策定しつつ、公園や学校等のバリアフリー化を進めている。</p> <p><b>【心のバリアフリー】</b></p> <p>・日本代表選手によるパラバドミントン体験（2017年度から30回開催、2,739人参加）や、パラバドミントン国際大会、関東パラ陸上選手権大会等各種のパラスポーツ大会を実施している。また、新規採用職員全員を対象とした心のバリアフリーの研修を毎年度実施している。さらに、避難の際に障害者が支援を受けやすくするため、「災害時等障がい者支援バンダナ」を14,000枚作成し配布している。</p>
西東京市 (東京都)	オランダ	<p><b>【パラリンピアン等との交流】</b></p> <p>・2017年度以降4回にわたりオランダのパラアスリートと交流を行うとともに、ウィルチェアーラグビー日本代表等の日本人パラリンピアンとの交流を毎年行っている。2020年度も日本人パラアスリートを招きパラスポーツの体験会を実施することとしており、それ以降も継続的にパラアスリートと市民との交流機会を創出する。</p> <p><b>【ユニバーサルデザインの街づくり】</b></p> <p>・駅のエレベーター等の整備及び駅前広場と都市計画道路の新設により、公共交通のアクセス性の向上とバリアフリー化を図った。また、市庁舎のトイレの洋式化を図った。さらに、課長級職員で構成する庁内推進会議を設置し、共生社会の実現に向けた事業を部局横断的に推進している。</p> <p><b>【心のバリアフリー】</b></p> <p>・「障害者サポーター」の養成講座を公民館・福祉会館・中学校等で継続的に実施しており（2019年度11回実施。約400人参加）、毎年開催する市民まつりでも簡易版サポーター養成講座やヘルプマーク等の配布を行っている。また、障害理解の促進のための講演会や講座、障害者団体による自主製作品の展示・販売等も継続的に実施している。</p>
厚木市 (神奈川県)	ニュージーランド (車いすラグビー)	<p><b>【パラリンピアン等との交流】</b></p> <p>・ニュージーランドのパラリンピアンと子どもをはじめとする市民との交流（車いすラグビーの体験、学校訪問、交流会等）を実施するとともに、市民を対象とした日本人パラリンピアンによる体験教室や地元の障害のある選手等によるパラスポーツの体験等のイベントを大会後も継続的に実施し、市民の障害者理解と心のバリアフリーを促進する。</p> <p><b>【ユニバーサルデザインの街づくり】</b></p> <p>・キャンプ地となる厚木市荻野運動公園では、2018年度にリニューアルし、バリアフリー対応した。市庁舎を含めた複合施設とその周辺の再整備に係る「厚木市複合施設等整備計画」を2020年1月に策定し、バリアフリーへの対応、ユニバーサルデザインの導入を積極的に推進。ノンステップバス及びユニバーサルデザインタクシーの導入補助などに取り組み、高齢者や障害のある方への交通バリアフリーへの対応を進めている。</p> <p><b>【心のバリアフリー】</b></p> <p>・ボランティア団体による市内小・中学校での車いす利用体験や手話講座、市内小中学校での車いすラグビー体験講座等を継続的に実施している他、ニュージーランド代表選手のキャンプ時には、車いす利用者の多い市内のリハビリテーション病院で車いす患者や医師、看護師を対象としたセミナーを実施している。</p>
加古川市 (兵庫県)	ブラジル (シットイングバレーボール)	<p><b>【パラリンピアン等との交流】</b></p> <p>・2017年に市長とブラジルのパラリンピック委員会会長、パラバレーボール協会会長の間でパートナーシップ協定を締結したことを契機に、ブラジルパラバレーボール協会と市内小学生の間で交流を行っている。また、地元のパラリンピアン等を招いた障害者スポーツ体験会を開催しており、今後も継続予定である。</p> <p><b>【ユニバーサルデザインの街づくり】</b></p> <p>・障害者や高齢者等の移動手段を確保するため、「かこバス」（ノンステップバス）を運行しているほか、年齢や障害の有無にかかわらず安全・快適にスポーツに参画できるよう、市内総合体育館の改修工事を実施している。また、障害者に対する社会的障壁の除去に向けて取り組む事業者に対して助成を行っている。</p> <p><b>【心のバリアフリー】</b></p> <p>・市内小中学校等において心のバリアフリー教育に継続的に取り組むとともに、2019年8月には全教職員を対象としたパラリンピアンによる講演会を実施した。また、障害者スポーツの普及のため、ボランティアの養成、スポーツ教室の開催等にも取り組んでいる。</p>